

社会福祉法人

鹿児島県母子寡婦福祉連合会

創立60周年記念誌

共生

歴代理事長



第1代・代3代
奥田ノブ



第2代
入鹿山フヨ



第4代
大川八重



第5代
鮫島ツテ



第6代
黒武者キミ子



第7代
有村壽子



第8代
尾前民子









社会福祉法人鹿児島県母子寡婦福祉連合会会長

尾 前 民 子

歩みつづけて60年

社会福祉法人鹿児島県母子寡婦福祉連合会が会員の皆様とともに創立60周年を迎えることができましたことは大変嬉しく存じます。本会は昭和29年、終戦後の混乱の中、同じ立場の母たちが団結して「生活の安定、子どもの健やかな成長」を願い、子どもを思う親の一念で国や県に働きかけ、ようやく国をも動かす力となり昭和39年に「母子福祉法」が制定されました。

これまでの歴代理事長様はじめ役員・会員の皆様方のご努力のたまものと心から敬意と感謝を申し上げます。あれから50年、この間、国の行政改革により制度の見直しが行われ、平成14年には「保護する福祉」から「自立を支援する福祉」に変わってまいりました。

平成22年には父子家庭にも児童扶養手当が支給されることとなり、平成24年9月には母子家庭の母の就業に関する「特別措置法」が恒久法として衆議院・参議院を通過して、父子家庭の父の就業支援も制定が図られたところでございます。

このように支援施策は変わってきましたが、子育てと生計の担い手という二重の役割を持つ「ひとり親家庭」を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。全国統一活動テーマにも掲げてありますように、「地域と共生、新たな歩み」を認識し、仲間を増やし「三つの安心であるところの仕事・生活・絆」を深め頑張っていかなければなりません。「会員減少」「高齢化」という課題に悩みながら、役員一同「自分の代で消滅させてなるものか」と苦しいところです。

最後になりましたが、この60周年という大きな節目を迎えることが出来たことは行政ならびに関係機関の方々の並々ならぬご支援、ご協力のたまものと厚く御礼申し上げます。